

「人権教育コラム」No.8

～「自分を大切にしてね」性教育で伝えたいこと～

保健室

森 明日菜

大久保 香織

「性教育」というと何を思い浮かべますか？

「体の発育・発達」や「生命的誕生」といった内容をイメージする方が多いかもしれません。

自分の体や生命のはじまりについて知ることは、自分や周りの人の体や心を大切にする

ために、とても重要なことです。しかし、それだけが性教育ではありません。

本校の性教育は、保健の学習の中だけではなく、各教科や特別活動など全教育活動を通じて、子どもたちが自分や周りの人を大切にし（人権の尊重）、豊かな人間関係を築くことができることを目標の一つとして進めています。

例えば、2年生では発育測定の後に「おへそってなあに？」という紙芝居の読み聞かせを毎年行っています。おへそがどのような役割をしていたのかに加えて、約10か月もの長い間、おなかの中で大切に大切に守られていたことを伝えています。「長い間会えるのを楽しみにしていたので、生まれてきた時はうれしくて少し泣いてしまった。」と自分の体験を話してくれた先生もいました。生まれてくる前から大切に守られていたことを知り、子どもたちは一人ひとりがかけがえのない存在であることを再確認したようでした。

また教室を回っていると、図画工作科の作品が様々な色の台紙に貼って掲示されています。青やピンク、オレンジや黒とたくさんの色の中から、それぞれ好きな色を選んだようです。性によって色を区別しないという考え方や、個性を尊重する姿勢も性教育につながるものと考えています。

塩草立葉小学校の子どもたちが、性教育を通じて「自分は大切な存在である」という実感を持ち、自分も周りの人も大切にできる

ように育つよう、これからも取り組んでまいります。

